

村山市消防団広報誌

第2号

H16.11 村山市消防団発行



女性消防団発進

編集委員長

第二副分団長

太田 幸信

消防庁からの女性の入団促進についての通知を受け村山市では二十二名の女性消防団員が入団されました。

女性消防団員といっても、男性消防団員と全く同じで、特別職の地方公務員ですからボランティアとしての婦人消防クラブ員とは異なっています。

消防団員は、いかなる場所で災害が発生しても即座に対応することが可能であり、地域とのつながりが深く、地域の各種事情についても豊富な知識を有しています。また、単に消火作業を行うだけでなく風水害や地震等、各種災害の防御活動にあたっております。その中の女性消防団員は、災害活動の他に独居老人宅への防火訪問、住宅への防火指導や広報活動、応急手当の普及指導活動等にあたっております。

消防団は、今後も村山市の安全のため、より一層努力していくつもりです。

九月五日の早朝から、平成十六年度村山市消防操法審査会が、最上川イベント広場を会場に実践的な水出し操法として、行われました。

私の所属する第一分団第一部は、ポンプ車操法の部に出場し、私はその指揮者として部内に初の優勝をもたらすことができました。

そして午後からは、尾花沢市で開催された北村山支部操法大会にも出場し、僅差で敗れたものの東根市に次ぐ第二位となり、銀メダルを獲得しました。

私たち一部では、過去に例を見ない好結果で、全団員が大いに盛り上がり喜びあいました。

このように素晴らしい成績を残せたのは、練習時に自分達でその日その日の目標を作り、また訓練期間全体の日程表を元に、みんながまとまって取り組んだからだと思います。それに加え、職員の方々の熱心な指導はもちろんです、部員みんなの毎夜の協力のおかげがあったからだと強く感じています。

三名の新入団員もこの大会に出場して、消防団員としての自覚をすっかり持ったことと思います。これからも、今まで以上に訓練に励み、いつでも即座に対応できる消防団活動を、目指して行きたいと思えます。

三澤喜美雄

北村山支部 消防操法大会 出場して



活動服に 袖を通して



「消防団の法被が活動服に変わるらしい」との事で、消防署に採寸に行きました。それがどういふことなのか、その時は私自身戸惑いを感じていたのが事実でした。なぜなら、消防団は法被を身に着けるのが当たり前で、法被＝消防団という感じがしていたからです。

春の大演習前に活動服が支給され、興味津々で袋から取り出し、実際に袖を通してみると、これがまた非常にカッコいいではありませんか。アポロキャップもなかなかいい感じで、これが消防団か…と目を疑ってしまいました。

大演習では八百人の全団員が、活動服に身を包み、ズラリと整列した様はまさに圧巻でした。消防団って格好いいなあと、誰もが思ってたけれど違いません。

そんな素敵な活動服を支給していただき、これまで以上に消防活動を、活発に遂行していかなければと決意を新たにしております。また、これまで消防団には法被姿のイメージが、強すぎたように感じます。しかし、今年からは、活動服こそが消防団にふさわしいと言われるように、日々精進していきたいと思えます。

大場 亨

消防と徳内に かける熱き心



六月二十四日、第十回全国女性消防団員活性化山形大会が開催され、村山市消防署員の防火太鼓と村山まとい連の徳内ばやしを、全国に広めて参りました。

署員の威風堂々たる和太鼓演奏が終わり、ホール内が静まり返った時、ラップ手の「部隊集合」曲が建物全体に響き渡り、囃子手の音楽と共に踊りが始まり、会場全体にいた誰もが、踊りとお囃子の音色に圧倒され酔いしている事が、この目と肌で実感でき盛大な拍手と共に、まとい連の徳内ばやし披露は大成功に終わることが出来ました。

この日の為に、打ち合わせと練習を重ね、出席した人に「感動されるような踊りを見て帰ってもらいたい」という思いが、あれ程までに素晴らしい拍手となって現れたのだと思えました。

私はこれからも、村山市消防団と村山まとい連の活性化のために、一生懸命頑張りたいと思います。

皆様、今後とも村山まとい連にご支援ご協力を、よろしくお願い致します。土田 直樹

第十回全国女性 消防団員活性化 山形大会に参加して



笹原美智子

「第十回全国女性消防団員活性化山形大会の開会を宣言いたします。」(ファンファーレ)この瞬間私の胸の中には、確かに女性消防団員としての、自覚が芽生えました。制服の貸与に、まあカッコいいなあ!から始まった私の消防団。大会が進むにつれ、全国で練り広げられている女性たちによる防火、防災活動に驚かされました。もちろん女性消防団の発祥の地が飛鳥であることにも。

私達の村山市においては、今年が初年度。報告するものはもちろん、発表することなど何もない。でもまず第一段階地元で親しみ、地元と共に活動すること(もちろん分団員として)のような気がする。そして、地域を災害等から守ること。私たち主婦が火との関わりが一番であることも忘れてはならない。女性が出来る事、または女性の方がやりやすいことを地道に分団と共に歩いてい

初めての年に、偶然にもこんな大役を任せられ、出席できたことをとても光栄に思う。

同級生の挑戦



「今年の操法は、同級生三人で挑戦したい。」自分たちから部長へお願いした。このような機会はめったにないし、操法をして得られる達成感と充実感を、一緒に分かち合いたいという思いがあった。そしてそれは現実となった。

練習では、自分達から「このようにしたらいいんねべが、もう一つぺんやってみっべ」という声で自然と出た事が何よりも嬉しかった。

何度も同じ動作を繰り返し、同級生同志互いに気を使わず、良い点・悪い点を指摘し合った結果、目標タイムにも大きく近づけた。

午前中に行われた北村山審査会では、プレッシャーにも負けず優勝することができた。午後から挑んだ尾花沢の大会でも、第三位という素晴らしい成績を収めることができた。

この結果は、決して自分達だけではなしえなかったと思う。夜遅くまで熱心にご指導頂いた消防署員の方々。そしてサポート役に徹し、陰で支えていただいた同じ部の先輩団員に、心から感謝いたします。

この結果に満足せず、われわれ同級生はこれからも挑戦し続けます。

齋藤 幸喜

応急手当普及員 講習会に参加して



『応急手当普及員講習会』の案内を見て、「女性消防団なのだから、応急手当くらい覚えていた方がいい」と思い当日出かけました。机の上に置かれた本には『応急手当指導者標準テキスト』と書いてあり「指導者の講習に来ている!」と初めて今回の講習会の重大さに気付きました。

応急手当や心肺蘇生法などは言葉では耳にしていたことがありますが、ほとんど中身は知りませんでした。講習会の内容は、学生の頃に多分習ったはずの体の構造から止血法、心肺蘇生法と事細かに教えて頂きました。覚えることが沢山ありすぎて、これをどう指導すればいいのか頭の中で整理がつかないのが正直な所です。でも受講して、救命に応急手当が重要なのがよくわかりました。一人でも多くの人に指導していくのが私の役目だと思えます。まだまだ『指導』までにはほど遠い状態ですが、少しずつ勉強して身につけて『指導』に近づけられる様に頑張りたいと思います。

後藤 厚子

あなたの力を、郷土のために発揮してみませんか

消防団員募集!!

村山市消防団では、郷土を守る心意気にあふれた、平成17年度の新入団員を募集しています。消防団員は、自分の仕事を持ちながら必要に応じ召集されて消防団活動を行います。入団すると、活動服・アポロキャップなど消防活動装備が貸与されます。また、万が一ケガをした時は、程度に応じた補償がされます。

一日訓練



彦 勝彦 新入団員一日訓練では、消防団員としての心構えを学び、基

本的な規律訓練を行いました。消防活動は人命に関わることなので身の引き締まる緊張感のある訓練でした。地域の人との交流をはかりたいと思い始めた消防活動。自分自身の見識を広げるためにも多くのことを学び、スキルアップに繋がられるように頑張りたいです。

火災現場にて



美 高美 入団辞令を受けて間もなく、全焼火災現場へ不安を抱えながら

ら出勤しました。現場では他分団の応援を受け、消防署員・消防団員のきびきびとした消火活動の中、驚きと怖さで何もできない自分が、悔やまれました。

先日、応急手当普及員の資格を取得し消防団活動の中の普及活動はもちろん、傷病者の心のケアにまで触れられればと頑張っています。

女性消防団に入団して



子 高橋 不安と疑問を抱え入団して早くて早六ヶ月。すべてが初めての

経験で右も左も分からないまま活動してきましたが、全国大会に参加し、二十四時間の応急手当を受講して少しずつ意欲を持ち始めました。消防団員、署員、地域の方々のご指導、ご協力ももらいながら一つずつ勉強し行動して「私達が女性消防団員です。」と言える様頑張りたいと思います。

操法に思う



斗 綾 「定位につけ班長の号令で駆け足で移動する。大周りにはたくさ

んの団員が見ている。署員の方々に教わった事を何度も思い出してみる。

ホースはまっすぐ。結合の確認。考える暇もなく夢中で走り出す。のが倒れ戻ってくる足の震えが止まらなかつた。郡大会へは行けなかつたが、練習の成果を出し切ったすばらしい操法大会だった。

操法に思う



彦 文彦 練習開始当初は何も分からず、動作の挙動を署員の方に教

えていただいた。それから二週間、毎日練習を重ね、大会当日には各員一致団結し練習の成果を存分に発揮することができた。入賞こそできなかったが一緒に操法を経験した団員や地区の団員の方々の連帯と大きな達成感を感じることができた。

編集委員

- | | | |
|------|--------|------|
| 委員長 | 第二副分団長 | 太田幸信 |
| 副委員長 | 第三副分団長 | 齋藤吉美 |
| 委員 | 第一副分団長 | 高橋賢一 |
| | 第四副分団長 | 菊地幸一 |
| | 第五副分団長 | 佐藤春夫 |
| | 第六副分団長 | 笹原謙司 |
| | 第七副分団長 | 永岡達男 |
| | 第八副分団長 | 大田一重 |

広報誌に関するご意見・ご感想は消防本部 ☎ 五五二二五二一四までお寄せください。

新入団員からのひとこと